鳴門西学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①「基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実」
- ②「学び合いによる思考力・判断力・表現力の充実」 ③「学校と家庭との連携による生活・学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員

田中 百合恵

中間期の見直し

の聞き取り 🎁

校長 教頭 佐藤 道代 研修主任 西上 真紀 低学年推進員 1年学年主任 大野 実緒 中学年推進員 3年学年主任 中尾 優志

達成状況(評価)

充実月間

高学年推進員 6年学年主任 阿部 美希

次年度における改善事項

◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

・指導技術や取組を共有できる研修(授業研究・グループトーク等)を行う。

・学校評価やチェックシートなどを活用し、定期的に取組状況を把握する機会をもつ。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや四則計算などについては、	・文章の内容を正しく読み取ったり、要点を抑えて	・ICT(AIドリル等)とプリント教材のそれぞれの良			
ある程度の定着が見られる。	話を聞いたりすることができる。	さを生かして効果的に活用する。			
○読書に興味・関心をもつ児童が多い。	・主述の整った文章を書くことや、自分の考えをま	・ノートの書き方や板書についての校内モデルを			
●学力の二極化傾向が見られる。	とめて書くことが習慣化している。	作成する。			
●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた	・学習の過程を通して習得した知識を、他の学習	・書く力を育てるために、「あわスタ」の活用を検			
知識等を関連付けたりすることに課題がある。	の場面で活用することができる。	討する。友達の作文を批正し合う場を取り入れる			
		等、文章の質を高めるための取組を行う。			
		・学習が早く終わった児童が取り組める内容(プリ			
		ントや「キュビナ」等)を工夫し、より個別の学びに			
		対応できるようにする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成 旧本生仕の世紀/ヘレン ●無限)

児重生徒の状況(○よさ・●課題)
○体験活動を好み、意欲的に活動できる。調べ
学習や目標が明確で見通しのつく課題には安心
して取り組み、思ったことを素直に発表できる児
童が多い。

具体的目標(目指す子供の姿) えを自信をもって表現することができる。 ・自分の考えと比べながら、相手の意見を聞いた り、複数の考えから新しい考えを創造したりする ・思考や表現のツールとしてタブレットを低学年か

具体的方策(教員の取組) |・調べたり体験したりした情報を整理し、自分の考|・学び合いを更に充実させるために、学級集団や 発達段階に応じた話し合いの目標を検討する。

ı	九里工ルツ1人ル ○よC・●沐咫!
ſ	○与えられた課題については真面目に取り組む
	児童が多い。家庭学習の習慣が定着してきた。

校長

内田 洋一

る児童が多 ●友達の意	かなくコミュニケーション力に課題のあらい。 まい。 意見を聞いて、自分の意見と比べたり えを整理したりして思考を深めることが	ことができる。 ・ICTを効果的に活用して、思考をまとめたり表現したりすることができる。	ら使うことを習慣づける。各学年で取組の目標を 設定する。			
	的に学習に取り組む態度の育成	龙				·
児童5 つ与えられ	生徒の状況(○よさ・●課題) た課題については真面目に取り組む	具体的目標(目指す子供の姿) ・学習の構えができている。	具体的方策(教員の取組) ・学校全体で、「めあて」「まとめ」「ふりかえり」の	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
児童が多い	い。家庭学習の習慣が定着してきた。	・自分の学習の状況を振り返り、自らの課題を解	授業の流れを統一し、子どもが自ら学びを深める			
●難しいこん る意欲が乏	とや疑問に思ったことを追究しよっとす としい。学習の見通しをもって、主体的	決できるよう計画を立て、実践することができる。 ・家庭学習を自主的に行い、問題解決に取り組む	│ ことができるようにする。 ☆ ・授業のユニバーサルデザイン化を更に進める。			
こ取り組む ●学翌田目	ことが難しい。 具の準備・学習態度など、生活・学習習	ことができる。	・家庭学習に取り組みやすくするために、低学年から、自分で学習を進める機会を設けたり、自主			
貫の定着が	い十分でない児童が一定数いる。		学習の仕方を教えたりする。引き続き、家庭学習			
			の手引きの見直しを行い、家庭への啓発を強化 する。			
			<u> </u>			
			<u> </u>			
3月	4月 5月	月 6月 7月 8月	9月 10月	11月	1月	2月
次年度の取組に向けた情報整理・	₩	推進員 職員会で	*	県調査 結果公		
O 取	検 学 *** ** *** ** ** ** ** ** ** ** ** **		★ 調査 結 → Dの		大プランの見 簡果 職員会で研修	等のデータに上 学校関
組	→ で ・校内で共通理解 ・学校HPに掲載し周知	検証研修	調査 → 結 — → の		を	子校
向 け			果		一	
た 情		*41	析		分析	
教 整	授業づくり 授業づくり 学習環境づくり	教 研科 研究 別	取	数 Et	取	実行プラン作成 実行プラン作成 に向けた情報整理・構 及に向けた情報整理・構 及に向けた情報整理・構 を記結果としてプランの 握
場 場	一	参 相	編	+ 引 	取 教 教 校内研 校内研 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学 学	""
素案の作	「快乗づくり 学習環境づくり 学習環境が 学習環境が 学習環境が 学習では 学習では では では では では では では では	研	計 一	[▽] 保護者から の悶き取り を		
11	'`	0845		───── の闘キ取り に		」

充実月間

の聞き取り